～ 日本倶楽部の120年 ～

＜日本倶楽部の設立とその後のエピソード＞

日本が日清戦争に勝利し、ようやく世界の注目を引くようになった明治31年6月6日、日本倶楽部が設立されました。これに先立ち明治30年12月、近衞篤麿、岡部長職、鳩山和夫の3氏の主唱のもと小村壽太郎、金子堅太郎などの諸氏も加わり、「日本倶楽部設立趣意書」が発表されました。その趣意書によりますと「人生の業務は各々その途を異にし、千差万別と雖も、その国利民福を増進せんと欲するは、即ち一なり。故に吾人は努めて社交上の親和を図り、その目的を達せざるべからず。顧みるに我が国と世界列国とは、今や修好日に加わり、外人の来遊するもの少なからず。このときに当たり、内は我が邦人の親和を図り、外は外人の交際を密にし、彼我情交の通融を議する機関を設くるは、けだし刻下の急務に属す。これ、日本倶楽部を設立せんと欲する所以なり。」とされています。

明治31年6月6日貴族院議長官舎において、発起人総会を開き、会則および役員を定め会長に岡部長職、副会長に長岡護美および澁澤榮一の3氏を選出し正式に発足しました。

設立当初の会員数は100名強でスタートしました(その後ほぼ順調に増加、ピーク時には、個人会員1340名(昭和52年3月末)、法人会員86社(昭和39年3月末)を数えるに至りました。)が、当時、政界人では大臣経験者、官界人では勅任官級以上、財界人では社長級の重要役員、軍人では将官級とまことにレベルの高いものでした。設立当初の頃の名簿(明治37年版)を見ますと、会員数は219名となっております。いろは順に整理されており、最初に表示されている会員は伊藤博文です。岡部長職、長岡護美、澁澤榮一の会長、副会長や設立準備に参加した近衞篤麿、鳩山和夫、小村壽太郎等はもとよりですが、原敬、大隈重信、高橋是清等そうそうたる顔ぶれです。金子堅太郎、安田善次郎、後藤新平、秋山好古、斎藤實、北里柴三郎等々各界の名士が名を連ねています。

帝国議会には、未だ議員会館などの施設がなく、日本倶楽部はこうした方々の「溜まり場」となり、実質的な「組閣本部」の役割も果たしたと云われています。政権が変わる都度大幅に人事が入れ替わった官選知事達も、一旦お役御免で本省に帰り、次の出番でまた地方に赴任するまでの間優雅に英気を養う場としても愛好されたようです。会員だった斎藤實内閣総理大臣の内閣(昭和7年5月～9年7月)では、閣僚の顔ぶれは15人中7人が日本倶楽部の会員だったと記録されています。

倶楽部の地下に「喜多床」と云う屋号の人気の理髪館がありました。本郷の赤門前で開業、東大の学生で大繁盛していた学生床屋でしたが、学生達が社会に出て日本倶楽部会員へと「出世」し、出店を出していた喜多床を大いに利用したのですが、椅子が全部大臣でふさがれることも珍しくなく、決裁の署名も床屋で済ませたという話もあるようです。

＜会館の建設＞

設立当初は、麹町区有楽町3丁目旧東京ホテル跡（現在の東宝劇場付近）を借り受け「倶楽部仮会館」としてスタートしました。明治33年有楽町1丁目清棲伯爵邸を借り受け移転、さらに清棲家所有地を借り受け会館を新築、活動を続けましたが、大正10年7月1日、麹町区有楽町1丁目1番地（丸の内3丁目12番地と町名変更）所在の三菱合資会社（現三菱地所株式会社）所有地を借り受け、新会館を建設、移転しました。帝国劇場の真裏に位置する鉄筋コンクリート造りの地下1階地上4階の独立会館でした。

大正10年12月24日、内務大臣より社団法人設立の許可がなされました。

大正12年9月1日、関東大震災では、東京市の大半が灰燼に帰しました。日比谷公園付近より発火、警視庁、帝国劇場と次々と延焼し、火災は日本倶楽部を襲いましたが、日本倶楽部従業員が死力を尽くして消火に当たり、幸い西側の窓を焼いたのみで事なきを得ました。永田秀治郎東京市長より表彰を受けました。その後会館は大幅な増築工事を行い、昭和3年6月増築記念式典と創立30周年記念を兼ねて、会員午餐会が催されました。

＜戦時中＞

昭和16年、第二次世界大戦勃発後も会員の来館者は変わらず、食堂も賑やかでしたが、昭和17年2月、戦時金属回収のため、会館使用の銅鉄製のシャンデリア、階段の手すりその他の金属諸器具を提出しました。戦争中は、食糧の配給が乏しく、又従業員が徴兵されるなど、倶楽部の活動は大幅に縮小せざるを得ませんでした。昭和20年3月の空襲では、会館屋上に焼夷弾の落下を被りましたが、幸いに被害はありませんでした。当時、倶楽部の出入り口、窓という窓は爆風除けに閉ざされ室内は暗く、会員の来訪も少なく、開館以来かつてないほどの荒涼たる光景だったと記録されています。

終戦と同時に、連合軍進駐に際し、当倶楽部も接収の命令がありましたが、第一生命に当倶楽部会館内の数室を貸与することとして全館の接収は免れました。

＜戦後の復旧と新たな発展＞

終戦後、昭和20年10月には、諸物資不足ながらも一応の設備を整え、早くも講演会などを開催するところまでこぎ着けました。昭和20年10月11日「原子爆弾について」と題する講演会（講師　仁科芳雄先生）が開催されました。以後講演会が毎月2回開催

されることとされました（現在は、原則毎月 3 回の開催となっています。）。そのほか漢詩会、俳話会を始め諸部会も復活して、来館者も日々数を増してきました。

昭和 25 年 10 月臨時総会を開催し、定款に「法人会員」を追加することを決議しました。「税金激増多大となり従来の個人会員のみでは、維持困難となりたるを以て、之を捕捉するためなり」と説明されています。第 1 号は読売新聞社でした。社長の正力松太郎氏が会員だった関係と見られます。以後、毎日新聞社、日本銀行、日本開発銀行、三菱銀行、東京芝浦電気、帝国ホテル等一流の会社、銀行が入会し、ピークでは 80 社を超えるに及びました　（昭和 39 年 3 月）。現在は、法人会員は 20 社です。

昭和 29 年度には、見学会が復活し、同年度内に「日本テレビ放送網スタジオ見学」など計 8 回実施し、参加した会員及び家族の延べ人数は 343 名に達しました。現在では、年 3 回のペースで続けられ、会員や会員家族の楽しみとなっています。

三菱地所の丸の内改造計画として「丸の内再開発」の企画構想の申し入れがあり、借地権および本館建物を三菱地所に引き渡し、新ビル（国際ビル）8 階に約 1000 坪の区分所有権を取得することの基本的了解に達し、昭和 41 年 9 月 14 日に竣工落成、新会館での倶楽部の活動が開始しました。

新会館の影響もあって順調な倶楽部運営が続き、来館者の数も増加しました。

昭和 53 年 10 月より、8 月を除いて毎月「倶楽部午餐会」が開催されることとなりました。

昭和 56 年 1 月の午餐会より、95 才の寿を迎えられた会員を招待し、記念品を贈呈して祝意を表することとなりました（九五(きゅうご)の寿）。現在でも、白寿、九五の寿、および米寿を迎えられた会員及び特待会員（会員歴 30 年以上で 75 才以上の方）となられた会員のお祝いとして続けられています。

倶楽部主催の会員作品展は、昭和 50 年 3 月に第 1 回が開催されました。

＜平成時代＞

平成 10 年 6 月をもって創立 100 周年を迎えることとなり、6 月 29 日、日本倶楽部 100 周年記念式典を開催し、381 名の会員が参加しました。

平成 12 年 12 月日本倶楽部運営検討委員会での審議結果の報告が行われ、その中で女性会員の受け入れについても報告されました。そして「現下の男女平等並びにこの度の行革会議の結論にも見られるように、女性の入会の阻止は反社会的の誹りを免れないことは必然である。たまたま、当日本倶楽部の入会基準にも、会員は男性のみとの明示はされていないことに鑑み容認する方向が求められる。」と提言されました。設立当初の「内則」で「会員は婦人を同伴することを得ず」と定められ、以来「女人禁制」が貫かれてきましたが、大きく展開し女性会員に道が開かれました。平成 13 年 3 月初の女性会員、佐藤欣子君が入会されました（推薦者は、鈴木俊一会長。）。その後多くの女性会員が入会し、現在では 17 人となっています。

平成 30 年 6 月の会員総会で定款変更が承認され、家族会員制度が制定され、会員の配偶者の入会が容易になるように道が開かれ、会員親睦の場としての当倶楽部の活動の輪をいっそう拡げることとなりました。

会員数は、前述のように、ピークには 1340 名（昭和 52 年 3 月）法人会員 86 社（昭和 39 年 3 月末）でしたが、次第に減少し、一時 500 名を割りましたが、会員増強特別委員会を中心に新たな会員を迎える努力が行われ、現在は、507 名（平成 30 年 6 月末、法人推薦会員を含む）、法人会員 20 社、となっています。

平成 25 年 4 月 1 日、公益法人制度改革に伴い「一般社団法人」として登記、「一般社団法人日本倶楽部」としてスタートしました。この名称は、平成 29 年 10 月に商標登録しました。

平成 25 年 5 月から、図書室で Wi-Fi が自由に利用できるようになりました。その後、この機能を拡張し、特別会議室において、平成 29 年から、アイパッドやアイフォンの講習会も開催され、ＩＴ化にも着実に対応しています。

平成 26 年 7 月、日本倶楽部会報第 1 号が発行され、倶楽部のイベントや会員の活動が会員全体に共有されるようになりました。会報は、年 4 回発行され、本号は第 17 号となりました。

平成 27 年 6 月から「ホームページ」をリニューアルオープンし、多くの方々に日本倶楽部の倶楽部ライフとしての魅力や活動を知っていただく場となっています。

平成 28 年 10 月 5 日、秋季会員親睦会を開催。定例的な会員の集いの場は、毎月の定例午餐会のほか、新年祝賀会、会員作品展の機会の懇親会、会員総会後の懇親会、秋季会員親睦会と充実されることとなりました。

平成 30 年 6 月 6 日、日本倶楽部創立 120 周年を迎え、7 月 3 日、記念の祝賀会が開催されました。131 名の会員や会員のご家族などが参加しました。また、この日からロビーに「創立 120 周年を振り返る展示」コーナーが設けられました。

（「日本倶楽部百年史」、新聞コラム（昭和 43 年 11 月等）、曾祖父、祖父が会員として活躍したという会員の思い出、日本倶楽部の会員名簿、評議員会議事録等の記録、等を参考にしました。（髙橋厚男））